

一応、算数科において

1時間の授業の中で学力差に応じた幅のある授業をいかに構築するか。

1. 授業・教材の二層構造化

表層	教える内容・量的なもの・結果・基礎・知識・理解・技能 アルゴリズム・結論
深層	育てる内容・質的なもの・原理・基本・表現・数学的な見方考え方 理由・過程

2. 学習展開

①問題把握

- 表層と深層の課題をしっかりと示す。
 - ・～を考えて～できるようになろう。
 - ・式を考えて、答えの求め方を説明しよう。

②自力解決のところに、手立てを詳しく書いていこう。特に学力の低い子どもへの対応を。

②自力解決

- 個別指導
 - ・学力の低い子ども：表層を中心に指導
教科書を参考にするように指示する。
ワークシート・サブノートなどを用意する。
答えが出せればよしとする。
赤ペンを入れる。
 - ・学力の高い子ども：深層を中心に指導。質的向上をねらう。

③学びあい

- 学力が、中以上の子どもが中心になる。
- 学力の低い子どもは、主に聞き役になる。
- 学力の低い子どもの意見は、尊重してやる。

④まとめ

- 表層と深層でまとめる。
 - ・〇〇の問題を～な考え方で解いたら、～になった。
 - ・まとめは、表層に重点を置いてまとめる。
- 学力の低い子どもには、表層は、確実に獲得させる。

3. 表層と深層

①表層

- すべての子どもに獲得させたい。
- 特に学力の低い子どもには、必要。
- くりかえし練習すれば、獲得できるものが多い。
 - ・計算ドリル、宿題、小テスト等で繰り返し練習させる。

②深層

- 学力差に応じて理解度が異なる。
 - ・「わかる」程度や「わかり方」が異なる。
- 質的な差が生じる。
- 学力の高い子どもには、特に質的に高いものを獲得させる。
 - ・塾では習わないこと。

4. 評価

- ①テストは、表層と深層を問うような問題を作る。
 - 深層を問うような問題を入れる。(文章表現が多くなって、点数を付けにくい・・・)
- ②評価が、子どもにはっきりとわかるようにする。
 - 深層の評価であることを子どもに知らせる。